

日本学術会議 6月5日学術フォーラム

鈴木・横田発表「ESD をめぐるこれまでの進展と今後の展望」発表要旨

これまでのESDをめぐる国際的な枠組みの進展を踏まえ、ユネスコスクールの活用やユネスコスクールを支援するための大学間ネットワーク、地域でESDを推進するための地域ESD拠点(RCE)やESD推進ネットワークの設立等、「国連ESDの10年」、グローバル・アクション・プログラム(GAP)時代における日本のESDの世界的にユニークな特徴を説明するとともに、新たに策定された枠組みであるESD for 2030及びそれを踏まえた日本の第2期ESD国内実施計画の推進に向けた課題を明らかにします。[鈴木]

国内NPOとユース世代(高校生・大学生)が交流、連携することにより、学び合うことができ、それによってお互いの活動を深めることができるという事例を紹介します。具体的には、ウガンダにおける国際支援活動「生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業」を実施している国内NGOに、そのテーマに関心を持った高校生が探求学習の授業の一環でコンタクトしたことで、高校生とNPO間の交流が生まれ、意見交換の中で、互いの活動を深めるヒントが得られ、それが活動に還元されている事例、並びに課題や展望についてお話しします。[横田]